



今年六月、地域おこし協力隊として道の駅「さくらの郷」に佐藤はるかさんが着任しました。さいたま市出身の佐藤さんに地域おこし協力隊として岩代に来た理由や、「さくらの郷」での活動や抱負、岩代の好きな場所について話を伺いました。

「蕎麦打ちとSNS等の情報発信を通して、岩代や道の駅ならではの魅力を伝えていきたいです」

かわら版

集落支援員だより



Q 岩代に引越した経緯は？

以前は、病院の医療事務の仕事に就いていましたがコロナ禍になってから心身ともに疲れてしまい、「都会を離れて自然の中でゆったり暮らしたいね」と夫と話すようになりました。

昨年、都内で開催された「ふるさと回帰フェア」に参加。二本松市のブースに足を運んだところが、実際に移住した方々のお話を聞いてとても楽しそうだったので、後日、二本松を訪れることに。「さくらの郷」で蕎麦打ちを体験し、農家民宿清峰園で初めて味わった「じゅうねん餅」の美味しさに感動。自分で育てた野菜で料理をする暮らしの豊かさを実感しました。

「さくらの郷」で蕎麦打ち職人を求めていることや、地域おこし協力隊も募集予定という話を聞き、移住を決意しました。

Q 道の駅での活動や抱負は？

着任早々は、挨拶まわりやイベントの手伝いに忙しい、蕎麦打ちを習い始めたのは六月中旬以降。まだまだ



▲包丁使いも上達中

▼蕎麦打ちの奥深さを実感



でももらえるようSNSでの情報発信も始めています。イベント等の情報が広く行き渡るよう試行錯誤中です。

ですが、最近は蕎麦の切り方が上手になったと褒められたり、蕎麦を味見していただいた方に「美味しかった」と喜んでもらえたりして励みになっています。蕎麦打ちの世界の奥深さを知り、やっと面白さが分かってきた感じです。早く一人前になれるよう頑張りたいです。

Q 他にもやってみたいことは？

「さくらの郷」では自分たちで栽培した蕎麦で蕎麦粉をつくっているのですが、収穫などのお手伝いにも楽しんでいます。また、個人的にはお休みの日に色々な農業体験をしてみたいです。自然が豊かな町に引越せたので、その恩恵を味わいたいです。皆さん、どうぞ宜しくお願いいたします。



◆笠井宏先生のお言葉◆
「はるかさんは熱心でスポンジのように吸収しています。情熱があるうちは伸びると思いますよ」

佐藤はるかさんの岩代で印象に残る場所は？

佐藤はるかさんに、岩代で印象に残っている場所を聞いてみました。「さいたま市と違って、山並みが見渡せる解放空間が多いことが、お気に入りです」

★天狗塚：

「安達太良山はもちろん吾妻連峰など雄大な山並みのスケール感に圧倒されました。ときどき訪れたい場所です」



★岩代図書館：

「入ってすぐ正面のガラス越しに安達太良山が見えたことに感動！静かでゆったりした空間で癒されます」



他にも沢山ステキな場所があると思います。教えてください！



道の駅さくらの郷



蕎麦日記



◀「道の駅さくらの郷」と「蕎麦日記」インスタのQRコードです。応援をお願いします！

～ごみの出し方講座②～

プラスチックごみへの危険物混入にご注意ください！

プラスチック製容器包装用（透明なごみ袋）のごみは、もとみやクリーンセンターの施設内で手作業によって選別され、「汚れたプラスチック」「その他のごみ」は取り除かれます。特に下の写真にあるような「危険物」の混入は、作業員の皆さんのケガにつながるため、プラごみに入れないようご協力をお願いします。



金属が含まれている製品は、破碎するごみ（ピンクのごみ袋）へ



中身が残っているチューブ、プラ容器類は、ビニール・プラスチック（青いごみ袋）へ

- ◆カミソリ
◆皮むき器
◆カッター
◆ハサミ
◆ライターなど
→破碎するごみ（ピンクのごみ袋）へ
※ライターは中身を使い切ってください。

こちらのQRコードから「ごみ出し方」を確認できます



▲「夢を大きく持って頑張ります！」と渡邊さん

今年六月、二本松実業高校安達東校舎二年生の渡邊拓実さん（百目木出身）が東北高校陸上競技大会、砲丸投げで2位に入賞しました。渡邊さんに全国大会へ向けた思いを伺いました。

「全国大会ベスト8を目標に頑張ります！」

渡邊さんが砲丸投げを始めたのは岩代中二年生の冬。翌年の春に投擲専門の先生が赴任し指導を受けたこともあり、同年夏に全国大会三位入賞という快挙を成し遂げました。「砲丸投げの楽しさは、球を押すときに指から弾け飛んで行く感じが面白いです」と渡邊さん。投擲競技の面白さに目ざめた渡邊さんは、二本松実業高校安達東校舎（旧安達東高校）入学後も陸上部に所属し、練習に励んできました。八月に全国大会出場を控えた渡



▲「球を投げるときの感覚が楽しいです！」

ごみの出し方Q&A

Q：お弁当のふたや総菜のラップには、値段等の紙シールが付いていますが、ごみに出すときは、きちんとはがさないといけませんか？

A：お弁当のふたや総菜のラップはシールが付いたままでOK。水洗いして固形物がなくなれば、プラスチック製容器包装（透明な袋）へ。ただし、家庭で使用したラップ類は燃やせるごみ（黄色い袋）に出してください。



▲リサイクル用プラごみは手作業で選別後、細かくして再び洗浄されます

「今年の全国大会の目標は、ベスト8に入ることです。高校卒業後も大学に進学して砲丸投げを続けていきたいです。夢はオリンピック出場。ビッグすぎる夢かもしれませんが、投げ続けたいです」。最後に全国大会への意気込みと将来の夢をたずねました。「今年度の全国大会の目標は、ベスト8に入る予定です。高校卒業後も大学に進学して砲丸投げを続けていきたいです。夢はオリンピック出場。ビッグすぎる夢かもしれませんが、投げ続けたいです」。



◆コーチの菅野先生から◆「渡邊君は中学3年生の時から毎年全国大会に出場しています。今年はハンマー投げもチャレンジしました。全国大会にベストな状態で臨めるようサポートします」

★ごみに関する質問を募集中です！

光昌の祖父は奥州石川氏石川冠者有光十四代の後胤、石川周防守尚義である。父摂津守有信は百目木城に住み、塩松石橋氏に仕えたが、永禄十一年（一五六八）小浜大内氏と共に石橋氏を滅ぼし、有信は三春田村氏に属する。ここに弾正活躍のステージが出来上がる。なお、二十四代晴光夫人は安達郡百目木城主小宗石川摂津守有信の姉孝子であり、弾正光昌の伯母に当たる。この夫人の一女照子は伊達晴宗の子小二郎を婿（昭光）とした。昭光の甥に当たるのが伊達政宗である。

また、応永二十年（一四一三）十六代石川満朝の三男盛光は、泉十三郎と称し、安達郡百目木を分領して石川治部大輔と称した。これらから鎌倉時代末頃には奥州石川氏の一族によって塩松東部の地域開発・領地経営が始まったと考えられている。塩松石川氏（小宗）の誕生である。「衆臣家譜」によると石川弾正

四 塩松石川氏の誕生
奥州石川氏石川有光の子孫の塩松進出について『石川氏一千年史』によって見ていく。興国二年（一三四一）六月、十三代石川貞光の六男光久（実は義光の子）は、すでに安達郡小牛杜（小手森）を分領して石河弾正忠と名乗ったという。
また、応永二十年（一四一三）十六代石川満朝の三男盛光は、泉十三郎と称し、安達郡百目木を分領して石川治部大輔と称した。これらから鎌倉時代末頃には奥州石川氏の一族によって塩松東部の地域開発・領地経営が始まったと考えられている。塩松石川氏（小宗）の誕生である。

岩代の歴史シリーズ

両属の将 石川弾正の生涯④

石川弾正顕彰会事務局長 日下部善己